

**JR 北海道 4線区廃止・バスに転換 13路線区「維持困難」 「生活の足」失う**

「JR 北海道（以下、JR 北）の島田修社長は16年11月18日、記者会見し、同社単独で維持困難な路線を発表した。対象線区は10路線13線区（1,237km）で、同社の運航在来線25線区（2,420km）の約5割に上る。国鉄分割民営化に伴う1987年のJR北発足以来、最大の事業見直しとなる。JR北によると、①輸送密度（1km当たりの1日平均輸送人員）が200人未満で営業係数（100円の収益を得るための費用）が1,000円超えの4線区は廃止し、バス転換する②輸送密度200人以上2,000人未満で営業係数300～1,000円程度の9線区は地元自治体と路線を維持する場合の費用負担を協議する一と分類した。自治体の費用負担については、鉄道施設を自治体などが保有する「上下分離」方式や運賃値上げ等を検討する。同社は今年3月期決算で、単体の経常損失（赤字）が過去最大の235億円を見込む。島田社長は記者会見で「何もしなければ、2019年度中に厳しい経営状態になる」と述べ、19年度内の合意形成を目指す考えを示した。」

「廃止・バス転換の検討線区となった根室線富良野—新得（しんとく）間の幾寅（いくとら）駅（南富良野市）。故高倉健さん主演の映画「鉄道員（ぽっぽや）」の舞台となり、今も年間約2万5,000人が訪れる。真冬のロケを炊き出しなどで支えた幾寅婦人会の元会長、佐藤圭子さん（77）は「健さんは撮影後も、地元と交流してくれた。列車が通らない『鉄道員』のロケ地なんて、健さんもファンもさみしがるとした上で、「通学や通院に利用する人もいる」と路線維持を求める。

また、協議対象になった室蘭線岩見沢—沼ノ端間の栗山駅で、列車を待っていた由仁（ゆに）町の岩元好美さん（75）は「年金生活者にとって列車は生活の足。今春のダイヤ改正で便利な昼前の列車がなくなった」と不安を吐露。通学に利用している岩見沢緑陵高2年の高橋茉那さん（17）は「運賃は片道360円。バスなら600円。列車は冬も事故がなく、安心なのに…」と話した。」（「毎日新聞」16年11月19日付け）

次々と消えて行く高倉健の映画のロケ地（北海道）—「網走番外地」（網走）、「飢餓海峡」（青函連絡船）、「海峡」（青函トンネル）、「幸せの黄色いハンカチ」（夕張）、「駅 STATION」（増毛）、「居酒屋兆治」（函館）、「鉄道員」（幾寅）等の鉄道や駅舎

**【JR 北海道が「単独では維持困難」とする区間】**

路 線	区 間	⑦室蘭線	沼ノ端—岩見沢
①札沼線	北海道医療大学—新十津川	⑧釧網線	東釧路—網走
②根室線	富良野—新得	⑨日高線	苫小牧—鵠川
③留萌線	深川—留萌	⑩石北線	新旭川—網走
④宗谷線	名寄—稚内	⑪富良野線	富良野—旭川
⑤根室線	釧路—根室	⑫日高線	鵠川—様似
⑥根室線	滝川—富良野	⑬石勝線	新夕張—夕張

【北海道へ行く時にはいつも乗った 急行はまなす (16年3月24日運転終了)】



【「駅 STATION」(降旗康男監督) のロケ地増毛駅周辺 (留萌本線) (17年12月廃駅)】



【公共交通機関】 道路・空港・港湾は、国と自治体が建設して管理する。

鉄道だけが、民間が建設して管理する。(整備新幹線は除く)

ロシアに、シベリア鉄道を、ウラジオストック⇒サハリン⇒稚内へ延伸する計画あり

【将来の北海道】 新幹線とシベリア鉄道だけが走っていて、在来線は走っていないかも